

サステナブル調達

考え方・方針

大塚グループは、ビジネスパートナーの皆さまとともに、高い倫理観に基づいて企業活動を行う意思を表すため、「大塚グループ ビジネスパートナー行動規準」を2024年3月に制定しました。調達活動においては、当社グループの行動指針として「大塚グループ 調達方針」を、サプライヤーの皆さまに向けて「大塚グループ サステナブル調達ガイドライン」を制定し、その内容をサプライヤーの皆さまに周知しています。

また、当社グループ関係者による不正行為や法令違反ならびにその疑いについて、サプライヤーを含むビジネスパートナーの皆さまが相談・報告いただける窓口（スピークアップライン）を2024年11月に設置しました。高品質かつ持続可能な製品を患者さんや生活者の皆さまにお届けするために、品質・安全性・安定供給に加え、倫理的かつ持続可能な、サステナブル調達活動を通じて、サプライヤーの皆さまとともに持続可能な社会の実現と双方の企業価値向上を目指し活動しています。

大塚グループ調達方針

（環境部分抜粋）

環境経営

「大塚グループ環境方針」に基づき、以下に掲げる項目に配慮した調達活動を行います。

- ・環境保全
- ・環境に関する許認可
- ・温室効果ガス排出量の削減
- ・汚染防止に向けた廃棄物、排出物の適切な管理と削減
- ・持続可能な資源の活用および生物多様性への影響抑制

（2024年5月改定）

 [ビジネスパートナー行動規準](#)

 [大塚グループ調達方針](#)

 [サステナブル調達ガイドライン](#)

取り組み

サステナブル調達活動における推進体制

サステナブル調達の推進については、2022年より大塚ホールディングスサステナビリティ担当役員をトップとしたサステナブル調達強化プロジェクトを発足させ、四半期ごとに各活動目標の進捗と課題を共有しています。本プロジェクトは、高品質な製品をお届けするための強固な安定調達体制の構築を目指す「安定調達」と、倫理的かつ持続可能な調達活動を目指す「責任ある調達」を2本柱として、各ワーキングチームに分かれ、活動を推進しています。



サプライヤーデュー・ディリジェンスの実施

大塚グループ各社では従来より、新規取引先へのデュー・ディリジェンスならびに主要原材料のリスクアセスメントを行い、想定されるリスクの明確化とともに複数社購買を原則とするなど、原料調達のリスク対策を講じています。

新規取引先へのデュー・ディリジェンスは、一部の海外と国内の事業会社では人権、労働環境、腐敗防止、自然環境等の内容も踏まえて評価を行っていますが、全グループ会社へと展開していくことが今後の課題です。

サプライヤー評価の拡大

大塚グループでは、サプライヤーの人権、労働、環境、腐敗防止に対する取り組みを把握するために、2022年にグローバル・コンパクト・ネットワーク・ジャパン（GCNJ）が作成した「CSR調達セルフ・アセスメント質問表（SAQ）」を用いたサプライヤーアセスメントを実施しました。これまで当社グループの国内主要事業会社*のサプライヤー 653社にアセスメントを実施し、重大なサステナビリティ関連のリスクがないことを確認しました。2024年は、大塚独自のSAQと国際的な評価基準である「EcoVadis」のアセスメントツールの導入を行いました。今後、海外を含む当社グループの事業会社において、サプライヤーへのアセスメントの実施を順次拡大していく予定です。

2028年までの第4次中期経営計画期間中に、サプライヤーの皆さまへ調達方針、調達ガイドラインの周知と同意取得を進めます。さらに、サプライヤーへアセスメントを実施し、サプライチェーンにおける潜在リスクの把握・管理により持続可能な調達を推進します。

*大塚製薬、大塚製薬工場、大鵬薬品、大塚化学、大塚食品、大塚テクノ、イーエヌ大塚製薬、大塚包装